



UNICORN

NO. 62

日本イェイツ協会会報 第 62 号

2012 年 3 月 12 日発行

● 日本イェイツ協会第 47 回大会開催の報告

第 47 回大会が 2011 年 10 月 29 日(土)、30 日(日)の両日にわたって江戸川大学において開催されました。

大会に先立ち、松村会長より挨拶があり、つづいて江戸川大学学長、市村佑一氏より挨拶の御言葉をいただきました。駐日アイルランド大使 John Neary 氏は所用のために出席されませんでした。大会開催に際してメッセージを頂戴しましたので、真鍋晶子氏が代読いたしました。大使のメッセージをここに記して感謝申し上げます。

* * *

Ambassador's message for the Annual Conference of the Yeats Society of Japan

My congratulations to the organisers of the 2011 Annual Conference of the Yeats Society of Japan!

Once again, this year's programme wonderfully reflects the range and depth of interest in Irish writers here, particularly William Butler Yeats. I am delighted to see the inclusion among the presenters of the foremost Japanese poet, Gozo Yoshimasu, who has acknowledged Yeats influence on his own work.

It is a great mark of continuing literary links between our two countries, which goes back over 150 years to the inspiration Yeats found in the Noh theatre and other Japanese artistic forms.

This year has been a difficult one for Japan due to the terrible tragedy which occurred in March in Northern Japan. It is at times like this that we rely on our artists who strive to express in words our innermost feelings. Yeats himself explained this in his poem *Where My Books Go*

All the words that I gather,
And all the words that I write,
Must spread out their wings untiring,
And never rest in their flight,
Till they come where your sad, sad heart is,
And sing to you in the night,
Beyond where the waters are moving,
Storm darkened or starry bright.

I hope that the words of our poets will bring comfort as well as inspiration to people across borders and bring us

closer together, especially at times like these.

Finally I would like to extend our gratitude to the 'untiring' members of the Yeats Society, its president Professor Matsumuura, the secretary, Professor Kobori and to the President and staff of Edogawa University for hosting this event. I wish all the participants an enjoyable and stimulating conference.

John Neary

Ambassador of Ireland

* * *

初日の 29 日(土)は、まず吉増剛造氏による講演「刹那を引き延ばすこと」が行われました。瞑想の瞬間を引き延ばすような歌の本質を探る吉増氏の語りは、自ら制作されたビデオ *Yeats Vision Ireland 13 分* を交えながら、その本質を緩やかに具体化されていき、感銘を受けると同時に深く考えさせられる内容でありました。つづいて講演を引き受けるような形で松田誠思氏が「吉増剛造におけるイェイツ」と題して研究発表されました。午後には 3 名の研究発表、柿原妙子氏の「'Easter 1916' と報道写真の衝撃」、薦田嘉人氏の「文体・個性・仮面-イェイツとワイルド-」、江崎義彦氏の「エピファニーの構図-Wordsworth と Heaney-」が行われました。シンポジウムは「Form、あるいは詩的であること：イェイツの場合」というタイトルのもとで長谷川弘基氏が司会・構成を務め、小菅奎申、西谷茉莉子、塩田英子の 3 氏がパネリストとして参加して行われました。

翌 30 日(日)には水崎野里子氏の「マイケル・ロングリー『雪水』に見るやさしい自然の表裏：共生と葛藤」、岡崎真美氏の「ドルイドの受容のかたち-イェイツとブレイクの場合-」、奥田良二氏の「解体と連鎖-マルドゥーンの *Maggot* について-」の研究発表が午前に行われました。午後には伊達恵理氏の司会・構成によるワークショップ「イェイツにおける放浪」をめぐってが催されましたが、パネリストには浅井雅志、虎岩正純の両氏が参加されました。

* * *

大会開催の労をとられた江戸川大学の海老澤邦江氏をはじめ、関係の方々に対しまして、実り豊かな大会となったことを改めて感謝申し上げます。

● 日本イェイツ協会第 48 回大会開催のお知らせ

2012 年度の年次大会は佐賀大学において 10 月 13 日(土)、14 日(日)の両日に開催される予定です。開催を引き受けていただきました佐賀大学の木原誠氏には深く感謝いたします次第であります。

今大会の講演には、虎岩正純氏を予定しています。シンポ

ジウムは伊里松俊氏の司会・構成による「*A Vision*について」(仮題)をテーマにして行います。またワークショップ

はシンポジウムと関連させて「'The Second Coming'について」(仮題)をテーマとして佐藤容子氏はその司会・構成にあたります。つきましてはそれぞれパネリストを2名募集いたします。参加される意向のある方は4月末日までに事務局へご連絡ください。

また研究発表をなさる方は800字程度のレジюмеを添えてその旨メールにて事務局へご連絡ください。研究発表の応募締切りは6月末日とします。

●『イエイツ研究』第43号刊行について

第43号に論文・研究ノートを従来どおり募集しておりますが、その締切りを5月末日といたします。投稿に関しては『イエイツ研究』第42号に記載されている「投稿規定」をご覧ください。なお、ご質問・ご不明な点がありましたら、編集委員長もしくは事務局へお問い合わせください。

『イエイツ研究』第43号に掲載予定の「アイルランド文学研究書誌」一覧を作成するにあたりまして会員諸氏の著書・論文等をお知らせください。記載対象の出版年月日は2011年10月から2012年9月までといたします。

● 会員の寄贈書紹介

会員より著書が寄贈されましたので以下ご紹介します。

* * *

浅井雅志 著『モダンの「おそれ」と「おののき」近代の宿痾の診断と処方』松柏社

池田寛子 著『イエイツとアイリッシュ・フォークロアの世界 物語と歴史の交わる場所』彩流社

風呂本武敏 監訳 『ショーン・オフエイロン短編小説全集 第1巻』新水社

● 会費納入のお願い

会費納入(一般5,000円、学生2,000円)の振込用紙を同封してありますが、2012年度会費を納入される方は通信欄に「2012年度会費」と明記して4月以降に納入して下さるようお願いいたします。なお、2011年度の会費納入をまだ済まされていない方は振込用紙の通信欄に「2011年度会費」と明記して納入してください。



*****The Yeats Society of Japan*****

日本イエイツ協会事務局
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1
城西大学語学教育センター 小堀研究室

